

若手研究者の困難・指導助言者の 葛藤を考える (2)

共催 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

研究者を目指すキャリアパスが多様化する中で、若手研究者を指導・助言する支援体制の在り方が問われている。研究推進委員会では、多様化する若手研究者の支援体制を問い直し、再構築の視点を見出すために、昨年より3ヵ年計画で若手研究者支援企画を実施している。

1回目となる昨年度は、いわゆるアーリーキャリアという意味での若手研究者にご登壇いただき、結婚や子育て・介護などライフイベントに伴う困難に、進路選択に伴う困難に、そして論文執筆に関する困難にいかに向直し、向き合ってきたのかについて報告いただいた。

2回目となる今年度は、ニーズが多様化する博士課程そして修士課程において、特に社会人院生を指導する指導助言者の役割や葛藤、そして指導体制・プログラムに焦点を当てる。社会人院生は、実務経験が研究の深化の契機になりうるというアドバンテージを有しているが、職務と研究の両立など社会人としての固有の困難も抱えている。大学院に進学するまでの経歴は多様であり、今後は教職大学院を修了した博士課程進学希望者が増えたと予想される。また、大学院修了後のキャリアも多様であり、狭い意味での研究者（大学教員）を目指すばかりではなく、現場の教育実践やマネジメントの高度化に貢献する研究的実践者として活躍する方が増えてきている。

こうした状況に対応して、大学院では長期履修制度が導入され、また一部の大学では教育実践現場への成果還元を目的とする新たな博士学位プログラムが導入されている。一方で、個々の社会人院生が感じている課題にも目を向けなければなるまい。今回の企画では大学院で指導する大学教員にご登壇いただき、システムとしての大学院教育の多様化の試みや、指導者側から見た社会人院生が抱える困難や、それに応ずる指導者の役割や葛藤についてご報告いただく。そして、これまで自明視されてきた研究者養成の環境・組織、規範やルールを問い直し、何を変えて何を変えないかについて、未来志向で議論を深めたい。

なお、今回は院生を指導する立場の大学教員に登壇していただくが、大学教員に加えて、大学院修了後に大学教員以外で活躍されている方や、現在大学院に在籍されている院生の方や、今後博士課程への進学を検討している方にも幅広く参加していただき、議論の輪を広げていきたい。

日時

2026年7月18日(土)
13:00-15:00

場所

名古屋大学 教育学部 大講義室
(対面およびZoomのハイフレックス)

お問い合わせ

日本教育方法学会事務局
nasem-jimu@mail.gakkai.ne.jp

<コーディネーター>

柴田 好章 (名古屋大学)
佐久間亜紀 (慶應義塾大学)

<司会者>

佐久間亜紀 (慶應義塾大学)

<提案者>

藤川 大祐 (千葉大学)
柴田 好章 (名古屋大学)
丸山 恭司 (広島大学)

参加
申込

- ・会員限定企画
- ・SOLTI より申込
- ・当日会場での受付可